

生物資源科学部だより

編集・発行 / 島根大学 生物資源科学部 〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 URL: <https://www.life.shimane-u.ac.jp/>
TEL: (0852) 32-6493 FAX: (0852) 32-6125

Vol.40

発行 2026年 7月



学部長より保護者の皆様へのご挨拶

生物資源科学部長 上野 誠



生物資源科学部は、1995年に農学部と理学部を改組し設立され、30年を超える歴史を重ねてまいりました。これまで学部の教育・研究活動を支えてくださった保護者の皆様をはじめ、地域や関係機関の皆様のご理解とご支援に、心より感謝申し上げます。

設立当初は5学科でスタートした本学部ですが、社会や学生を取り巻く環境の変化に対応するため、2018年に3学科(生命科学科・農林生産学科・環境共生科学科)へと改組し、現在に至っております。学科構成は変化してきましたが、各学科と附属センターが連携し、自然豊かな島根のフィールドを活かした教育・研究を行ってきた点は、本学部の一貫した強みとなっています。

本学部では、「ここにしかない学び」としてのフィールド教育を実践し、生命・農業・食・環境に関する幅広い専門知識と課題解決力を備え、地域や社会と連携しながら持続可能な社会の実現に貢献できる人材を育成しています。さらに、未利用資源の利活用に関する研究を学部の強みの一つとして強化しており、昨年度からは発酵研究にも取り組み、これから地域資源を活かした実践的な学びを一層充実させてまいります。

現在、18歳人口の減少や社会構造の変化により、地方国立大学を取り巻く環境は厳しさを増しています。このような状況の中で、本学部では、高校生、在学生、保護者の皆様、地域社会や関係機関の声に丁寧に耳を傾け、より信頼され、必要とされる学部へと進化していくことが重要であると考えています。

これからも本学部の学生が、変化の大きい時代においても自ら考え行動する力を身につけ、社会の多様な分野で着実に活躍できる人材へと成長できるよう、教職員一同、教育・研究・学生支援に全力で取り組んでまいります。

今後とも、生物資源科学部の活動に対し、引き続きご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和8年度入学式を挙行

4月2日(木)、令和8年度島根大学入学式が「くにびきメッセ」にて行われ、生物資源科学部に220名、大学院自然科学研究科(生物資源科学系)に64名の新生が入学しました。

式では、大谷浩学長の入学許可宣言と式辞、来賓の祝辞、入学生代表の宣誓、模範となる先輩学生の表彰が行われました。

入学式に引き続いて新生保護者会・後援会を開催し、学生支援の内容等の説明を行いました。

午後には学部全体のオリエンテーションが、翌日には学科ごとのオリエンテーションが実施され、新生の大学生活がスタートしました。



先鋭研究部門のご紹介: 地域に眠る微生物で未来を拓く

本部門では、地域に眠る有用微生物(ローカル酵母・乳酸菌・麹菌など)を発掘し、宝物として活かす研究を進めています。地域のクラフトビールブリューリーやベーカリー、また、自治体や高校などと連携して、大学農場の桜など地元の素材から採取したローカル酵母と、地域農産物のペアリングによるビール、シードル、パンなどの新規発酵製品を共同開発しました。魅力的なローカル素材を活用したオンリーワンの新しいもののづくりを通して、地元を誇れる未来の創造に繋がる地域産業の活性化や人材育成を目指します。

新任教員の紹介

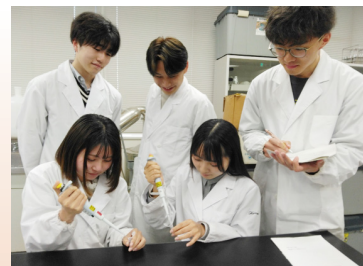
本年4月1日付で、生物資源科学部に次の教員1名が着任しましたので、ご紹介します。

学科・部門: 環境共生科学科 氏名: 渡邊 伸一 専門分野: 環境土壌学

学 科 の 様 子

生 命 科 学 科

生命科学科では、講義で得た知識を土台として、多彩な実験・実習やセミナーを通じ、確かな理解へとつなげる学びを展開しています。また、日々の講義でパソコンを活用するとともに、オンデマンド教材などのICT(情報通信技術)を導入し、学生一人ひとりに合わせた柔軟な学習環境を整えている点も特徴です。各学年のステップとして、まず1年次には「生命科学基礎セミナー」を受講して各コースの研究内容を把握し、2年次のコース分けに向けた準備を行います。2年次からは各コースへと分かれ、自らの興味・関心に応じた講義や実習を通して専門領域への理解を一段と深めていきます。3年次においては、研究室訪問の結果を踏まえて、後期から各研究室での研究活動が始まります。研究室に所属した後は、走査型電子顕微鏡、GC-MS、HPLC、DNAシーケンサー、PCR装置、共焦点レーザー蛍光顕微鏡などの高度な分析・観察機器を駆使して研究活動を進めていきます。最終学年である4年生は、就職活動や大学院進学との準備と両立させながら、大学での学びの集大成となる卒業研究に専念することになります。



遺伝子工学実験の様子
(4月30日、学生実験室)

農 林 生 産 学 科

農林生産学科の1年生は、入学後すぐにオリエンテーションに参加します。学生生活に必要なコンピュータ講習や授業の履修説明を受けます。4月には科目「フィールド実習」で三瓶演習林にて森林実習に参加し、5月の「基礎セミナー」では海外留学の話聞きました。

2年生になると、分属した4つの教育コースの講義・実験が始まります。基礎的な知識・分析手法を学んだあとは、3年生で研究室に所属し、卒業研究に向けてさらに専門性の高い調査や実験・演習を行っていきます。4年生は研究論文の完成を目指して、就職活動や大学院進学との準備を進めながら、調査・実験結果の解析に本格的に取り組むことになります。学生が円滑な学生生活を送れるよう、卒業まで指導教員がサポートしています。4年間を通して学生が大きく成長することを期待しています。



農林フィールド実習の様子
(4月18日、島根大学三瓶演習林)

環 境 共 生 科 学 科

環境共生科学科では、入学してから約2ヶ月の5月下旬に野外実習(環境共生科学基礎セミナー)を実施しています。本年もフレッシュで元気な1年生が2台のバスに分乗し、朝、島根大学を出発しました。山の方を先に回るグループは三瓶演習林で山陰地域の樹木および人工林の間伐と土壌保全をテーマに現地観察を行いました。午前中に湖を回るグループは宍道湖の西岸で汽水域と塩性湿地の解説を聞いた後、宍道湖自然館ゴビウスで生物の展示を見て回りました。両グループとも、お昼頃には神戸川の上流にある志津見ダムに到着しました。急な階段を下りて堤体の中に入り、普段は見ることのできないダムの内部の様子を見学しました。入学後の慣れない生活と学内での普段の講義の毎日が続いていたので、今回の外に出かける実習は皆楽しみにしていたことと思います。山と湖の新鮮な空気を吸って歩き回る気分転換のみならず、見学先での新しい発見を通じて今後の学習や研究に対する動機づけの役割があったのではないのでしょうか。参加者全員が充実した一日を終えることができました。



野外実習(環境共生科学基礎セミナー)の様子
(5月23日、宍道湖西岸)

ここにしかない学び

フィールド教育プログラム～森林から耕地、海へ～は、私達の生活が自然との共生の中で成り立っていることへの理解を深め、地域に貢献できる人材を養成するための、分野横断型の「クロス教育」プログラムです。本学部附属生物資源教育研究センターの三瓶演習林、本庄総合農場、神西砂丘農場、隠岐臨海実験所での活動を通して、現状と課題の総合的な理解を目指しています。

大学院への進学を勧めています ～大学院で学びを深めませんか～

生物資源科学部で学んだ後は、より高度な技術を身に付け、専門的な知識を深めることができる自然科学研究科への進学を推奨しています。大学院での学びを通して自分の能力をさらに磨き、専門性を生かして進路の選択肢を広げることができます。



↑
入試情報はこちら

後援会への入会をお待ちしています!

生物資源科学部後援会は、「生物資源科学部の強化発展を期し、その教育事業を後援することを目的」として、保護者の皆様が会員となり、学生の進学、就職支援ならびに学生生活充実のための様々な学生活動への支援をいただいています。未入会の方は、是非入会いただきますようお願いします。

- 学部生 入会金及び会費 30,000円
- 3年次編入学生/入会金及び会費15,000円